

《研究事例》

幼児の発達段階に

応じた子どもの言語指導

土 屋 厚 子

飯 森 園 江

—はじめに—

人間にとって、幼児期の言葉は、きわめて重要な意味をもつと思う。言葉というのは形に残らないものであり、知らず知らずのうちに、聞きのがしていることが多い。そんな中で現代の情報豊かな社会に、子供の発達段階に応じた豊かな言語活動を育てるには、どのようにしたら良いかという問題に時としてぶつかってきた。そこで幼児における言葉の意味と発達段階をふまえての言語指導の基礎を明らかにし、それにもとづき子供の言葉について自分達なりに考え、いろいろな遊びを通して、少しでも「豊かな言葉」「豊かな表現」を身につけられるようにとの思いで、この一年間の取り組みを園の生活事実を通して報告したい。

この研究は、軽井沢町立の5つの保育園の保母が集まり、年令別に2部会に別れて進めたものです。

一般的な言葉の発達について

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 言葉の準備期 | … 0 歳 |
| 2. 一語文の時期 | … 1 歳前後 |
| 3. 二語文の時期 | … 1 歳半前後 |
| 4. 第一期言語獲得期 | … 2 歳前後 |
| 5. 多語文、従属文の時期 | … 2 歳半前後 |
| 6. 文章構成期 | … 3 歳前後 |
| 7. 一応の完成期 | … 3 歳～ 4 歳 |

8. おしゃべりの時期 … 4 歳代

9. 第 2 期言語獲得期 … 5 歳代

10. 就学前期

A 年少・未満児について

言葉の役目

1. 共通の物を表すものである。
2. 意志を通ずるものである。
3. 無い物を、頭の中で組み立てたり、組み替えたりの操作をする。

以上が、道具として大切であり、3 歳までにでき上がる。

1 歳…人の顔色・雰囲気・声の調子など総合して受け取る能力が発達する。

2 歳…いつもだれかに、働きかけられている状態である。

3 歳…保母がヒントを与えるが、それだけでは不満足な子には、保母が補助をする。

・言葉のやりとりのエネルギーは、意志である。

・言葉に伴って出てくるサインが、手ぶりや身ぶり・表情である。

—保母の役目として—

子供が喜んで話せる状態を作る——いつでも、子供の言ったことに対し、必ず受け答えをする。組み立てる言葉・考える言葉・やりとりする言葉が、3 歳までにでき上がっているようにすると共に、それができる範囲を広げていく。

使用語い

2 歳まで 200 ～ 400

3 歳まで 800 ～ 1000

4 歳まで 1500 内外

5 歳まで 2000～2400

以上をふまえた上で、研究を進める。

研究 1

1. 一生懸命に働きかけても、子供には、わからなかったこと。例として……子供か

ら名前を引き出すために、人形を使うが、人形に興味を持ってしまい、名前は、出せなかった。

2. 思いがけない言葉を集める。

例として、保母が、マスクをかけていて、マスクをとった時に、「かぜは、なおったかい」と言った。

3. 子供が言うことで、わからなかったこと。

例として、子供は、「お帳面は？」と言っているのだけれど、保母には、「おしょんべんは？」としか聞きとれない。

以上の言葉を集めたことにより、年少・未満児の言葉について。

1. 何でも、吸収する時代で、興味のある物は、すぐ覚える。

2. この段階では、言葉の上手下手は、関係はない。問題は、通じようとする姿勢・訴えかけようとする姿勢を持っていることが大切である。

3. 言語と事柄のつながりを、しっかりさせておくことが大切である。（にがい、くらいなど）

4. 実感と言葉のつながりを、しっかりさせておくことが大切である。

以上をふまえた上で、次の指導・観察を進めた。

研究 2

1. 一人ごとの場面をとらえる。

例. 年少児…ママごとをしながら、人形を相手に、「よしよし、早く寝るんだよ」と言っている。

未満児…ブロックで、車を作り、「ブーン、ブーン、車きたきた」「ブーン、ブーン、落ちる落ちる」と言っている。

2. 二人で遊んでいる時の受け答え

例. 年少児

A「今日、ボクの家泊っていきな」

B「お父さんに、叱られるからだめ」

A「ボク、電話してあげる」

B「電話しても、おこられるからだめ」

A「ボクの家、お布団いっぱいあるのに残念だね」

(A……ペンションの子である)

未満児 (散歩時)

A「〇〇ちゃん、ここで、ころんでも泣かないよ」

B「そうだよ、涙が出ると、血がでるんだよ」

A「そうだよ、涙が出ると、血がでるんだよ」「あー、まねしちゃた、まねしちゃた」

3. 保母に報告してくる言葉

例. 年少児…登園して来て、「お母さん、鼻水して、病院へ行ったの」と言う。

未満児…歯をみがいて遊んでいる時

「いつまでも、やっているよ」と言う。

4. でたらめ話を集める

例. 年少児…「私んちの赤ちゃん、私のベッドで、寝ているよ」「弟だよ」「病院いくんだよ」

(実際には、弟はいない子である。)

未満児…「私の家に赤ちゃんがいたんだよ」「でもね、小さい時に、階段から落ちてね、死んじゃったんだよ」

考察

- ・自分の言葉ではなく、聞き覚えの言葉が主である。
- ・本当の意味が、わからないが、子供なりの理解の仕方をしている。
- ・子供の言葉の出所は、まねが多い。

—特徴として—

- ・意味が、通じているようで通じていない場合がある。
- ・同じ言葉を、2回でも3回でも、くり返している。

—大切なこと— (2歳～3歳にかけて)

- ・正確な会話のまねをさせる。
- ・経験を豊かにさせ、正しい意味を理解させる。

・内的会話（心の言葉）を、大切に上げる。

研究 3

早口言葉・同じ音で始まる言葉・しりとり・反対言葉・擬音語・擬態語・伝言・ま
ちがえさがし・口頭作文 以上の中から、子供の状態を見て、いろいろな遊びを工夫
する。

—子供が喜んだ言葉遊び—

年少児…「しりとりあそび」 男6、女9。

導入・言葉のしりとりをしてみたが、まだわからないため、興味を示さなかった。絵
を見ながらでは、興味を持てるかどうか、また言葉のつながりを、少しでもわ
かればとの思いで、絵本を見せるようにした。

展開・絵を見ながらのしりとりを楽しむようであり、自由遊びの時にも、友達同志で
見せあったりして、遊ぶようになった。何回も見ているうちに、リズムをとっ
てやったりすると、のりやすくなった。子供同志で「あ」のつく言葉やいろい
ろな言葉をさがしたりするようになり、楽しんで、言葉遊びができるようにな
った。

終結…絵本を見ることによって、しりとりや言葉をさがして、遊ぶほかにも、下から
読んだらどうなるかなどをやってみた。字を自分では、読めないが、言葉のこ
ろを楽しんだりして遊び、友達の名前を、さかさ言葉として、喜んでやること
ができた。

これからも、この本だけに限らず、いろいろな本を使っての言葉遊びを楽しめ
るようにできたらと思う。

未満児…劇遊び 男4、女7、1歳児4名

方法…①パネルシアター（みんなの広場）を使って、歌と劇の流れを知らせる。

②かみなりパンの紙芝居を見せる。

③かみなりパンの劇遊びを見せる。

④パネルシアターと紙芝居を元に、台本を作り、劇遊びをする。

⑤子供会に発表する。

備考・パネルシアターに対しては、あまり興味を示さなかったが、その中で使われていた歌は、喜んで口ずさむようになる。

- ・簡単な劇で、同じパターンのくり返しだったので、思ったよりみんな楽しんでいた。
- ・子供達にも負担になることなく、普段の劇遊びの総まとめのような感じで、喜んで発表できた。その他、子供が喜んだ言葉遊びとして、次のような遊びを実践してみた。

子供が喜んだ言葉遊び

年少児

遊 び	方 法
・しりとり遊び	・「ふた・たぬき・きつね・ねこ」の絵本を使って絵を見ながらしりとりをして遊ぶ。
・指人形遊び	・保母の手を見せ、一本一本の指の名称を引き出した上で、指に人形をつけ、子供との会話を楽しむ。 ・子供の指に顔の絵を描いてやり、保母や友達との会話をして楽しく遊ぶ。
・劇遊び「赤ずきちゃんとオオカミどん」	・「赤ずきんちゃん体操」を元に、脚本を作成し、レコード劇にして劇遊びを展開する。
・鳴き声遊び	・動物の鳴き声を真似し、その動物の名前を当てる。また表現を自由にやらせる。(お面や伴奏など入れると効果が高まる)
・まちがえさがし 絵本 「三匹のやぎのガラガラドン」 「大きなかぶ」	・絵本の特徴的な言葉（大きいやぎーがたんごとん）を、保母がわざと変えて読み、子供達にまちがえをあてさせる。
・手遊びを発展させて遊ぶ	・ひげじいさんの手遊びをした後、メガネを作っ て見せ「これどんな形してる」と聞いたりして 子供の反応に応じて発展させて行く。
・紙芝居より、劇遊び、ペー プサート劇にと発展させる	・紙芝居を何度も読み、内容を覚えた上で、お面 ペープサートを作り、演じて遊ぶ。
未満児	
・指人形遊び 「ふたがぶたれた」	・軍手人形をはめ、「ふたが、ぶたれた」の言葉遊び をしながら、指人形を動かすことを楽しませる。

	「ブタがぶたれた、ブタにぶたれた、なぜぶたれた」 1 でいばって、2 でにらんで、3 でさわいだら 4 でしかれた、5 でゴツンとぶたがぶたれた」
歌・絵本より 劇遊びをする 「まいごになったぞう」	ぞうに対して、興味度が高まった事と利用し、歌や絵本を通し、身体表現をさせたり、劇遊びへと展開する。
手遊び 「手にもつなあに」	「手にもつなあに」の歌に合わせて、品物の名前をあてさせる。応用として、音あて、形あて、色あてなどをする。
劇遊び	パネルシアター（みんなの広場）と紙芝居の「かみなりパン」を利用し、脚本をして、劇遊びへと展開する。

—まとめ—

2歳～3歳にかけては、言葉の入口に立っている。その時期に

- 1 みんなで、となえると感じの良い言葉（リズムのついたもの）
- 2 調子の良いもの
- 3 真似しやすいもの
- 4 感じの良い言葉

以上を大切にし、子供に与えたい。

- ・年令的に、毎日のくり返し、保母からの言葉がけが、言葉獲得の大切な要素となる。
- ・子供達は、保母達の言葉や口調を真似して成長していくので、保母は、言葉を選び、美しい日本語を話すように、心がけていくことが大切である。

最後に、言葉のない世界（感覚だけの世界）から、言葉のある世界へ行くということとは、子供達にとっては、時間の超越である。

B 年中・年長児について

1. 研究テーマ

子供たちの発達段階に応じた豊かな言語活動を育てるにはどのようにしたらよいか。

2. テーマ設定の理由

個々の言語活動の発達状態を知りさまざまな言葉あそびを通してその活動をより豊かにして行きたい。

3. 研究方法

- ① 発達段階に応じた言葉あそびを考える。

前半…保母が考えたあそびを与える。

後半…子供自身から、引き出したあそび。

- ② 一年間を通して、口頭詩を採録する。

4. 研究内容

言語活動の豊かさとは……

語彙が豊富であることは、もちろんのことであるが、話題に関心がなかったり、話そうとする気持ちがなければ、言語活動が豊かであるとは言えない。生活の奥ゆきがあり豊かな経験をさせることが大切である。

◎言葉には次の三つの特徴がある。

1. 人に伝えるための役割

共通した概念を持っている。

2. 耳から音として聞こえてくる。

3. 言葉と言葉を組み合わせ、次々といろいろな言語表現が生まれてくる。頭の中で言葉をつなげ、考えたりイメージを浮かべることができる。

※ これらの項目が幼時期に基礎としてできていることが必要である。そのためにも数多くの言葉あそびを通じて言語活動を豊かに育ててゆくことが大切である。

◎言葉あそびを理論的に考えると次の三要素になる。

1. 基本的な発音や発声、正しく話すための口のトレーニング（うたことば、うたあそび、早口ことば等）

2. 語彙をふやす

（名前集め、形集め、しりとり、なかよしことば等）

3. 語法を知る

（覚えた言葉を整理したり、つなぎ方を理解する）（絵かきうた、替え歌、なぞなぞあそび、間違い探し、お話作り等）

◎口頭詩について

- ・ 保母はお喋りしている子供の言葉をいつでも聞いてあげたり、また、やりとりのできる状態にいることが大切である。
- ・ 子供の言葉を大切に「おもしろかった」「また話してね」など、誘い出してやる。
- ・ 共鳴しても、こちらの主観は示さないようにして聞く。
- ・ 採録した後の生かし方
絵を描く、はやしことば、節をつけて歌う等)

◎研究課題として

- ・ 言葉あそびの三要素を基にして、それぞれクラスの発達段階をチェックし、それに応じた言葉あそびを与え、反応結果等を持ちより話し合う。
- ・ 口頭詩を採録する。

年長児

1. 基本的な発音や発声、正しく話すための口のトレーニング

遊 び	方 法
・ 伝言ゲーム	・ 小人数により簡単な文や言葉から始め、慣れるに従って、人数や文を増やして行なう。
・ 早口言葉	・ 早口言葉を集め、皆で練習し、その中より自分の好きな物を、みんなの前で発表する。

2. 語彙を増やす

・ 言葉集め	・ 「あ」「い」「う」など、特定の文字を決め、それにつき言葉を集め、みんなで声を出して読む。→ゲームへと展開する。
・ 色物集め	・ 「赤い物」―「リンゴ」などから、「リンゴは、赤いだけかな」と色や物について考えて行く。
・ しりとり	・ 言葉の最後の文字につく言葉を探して、みんなで遊ぶ。
・ 反対言葉	・ 高い→低い、大きい→小さいなどの反対言葉を探す。
・ 連想ゲーム	・ 「リ〇ゴ」のようにまん中の文字をぬかして、あてはめて行く。また「うさぎは、はねる、はねるはカエル…」と、言葉から連想される物をつなげて行く。

3. 語法を知る（覚えた言葉を整理したり、つなぎ方を理解する）

・生活発表	・絵日記を使って、休日に一番楽しかったことを描いたりして、みんなの前で発表する。
・お話し作り、 また、途中からのお話し作り	・最初の文は、保育が与え「この次は、どんなふうにしてみたいか」等の言葉がけをして、話しを作り、できた物を読みきかせ楽しむ。 ・「広い広い野原がありました」など情景を想像させた途中で、「空を見ると」…「あれ」「ワー」「すごい」などで止め、子供につづけさせ話を作る。

年中児

1. 基本的な発音や発声、正しく話すための口のトレーニング

・伝言遊び	・リズムカルな言葉を伝える。 「ひよこが、ピヨピヨなっている」「今日のおやつは、チョコレート」など。 ・伝える文章に「～を持って来て下さい」などをつけ、最後の子に、物を持ってこさせる。
・歌、手遊び	・言いまわしが難かしく、面白い物を選んで歌う。 （小鳥の結婚式、ビビディ・バビディブー） ・動作・声・口の開け方をもとに、変化することを楽しませる歌や手遊びをする。 （小さい庭、石のころがる音、雨の降る音、いびきの音） ・かけ合いを楽しむ歌遊びをする。 「鳴いた、鳴いた」「何が鳴いた」 ○○が鳴いた ○○○

2. 語彙を増やす

・連想遊び	「とんだ、とんだ」「何がとんだ」を利用して、ルールを決めて進める。（とぶ物の時は、両手を上げる。とばない物の時は、出題者以外は、手を上げてはいけない。）
・絵カードを使って遊ぶ	・生活発表の前の段階として利用する。 「T・V」の絵から「いつ見る」「何を見る」など
・パネルシアターを使って歌遊びをする	・一緒に歌ったり、鳴きまねなどをする。

3. 語法を知る

・お話し作り	子供達自身が登場人物を決め、お話しを作り、絵本を作り上げる。
・なぞなぞ遊び	影絵を利用して行う。また、「仲間はずれはだーれ」などのなぞなぞ遊びをする。
・紙芝居の内容を話す	内容について、みんなで話し合う中で、「だれが」「どうした」など、具体的に文章を長くし話せるようにさせる。

◎子供達におろした、言葉あそびの例（一部）

◎保育活動におろした言葉あそびの例（一部）

年長 1. 基本的な発音や発声、正しく話すための口のトレーニング

テ ー マ	方 法	考 察
伝 言 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5、6人のグループに分け簡単な文や言葉から始める。 ・ 慣れてきたらグループの人数も多くし文も長くする。 ・ 最近では円を作り全員で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数回やるうちにおもしろさがわかってきたようで、「伝言ゲームやろう」という声が、子供達から聞かれる。正確性も出てきた。 ・ 大分スピードもで、間違わず全員を回ることができるようになる。
早 口 言 葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早口言葉を集めおろしてみる。一日ひとつ皆で練習してみる。いくつか覚えられたところで、自分の好きなものをひとりて発表できるようにもっていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の段階では、活発な子だけといったようになってしまったが、徐々に消極的な子も皆の前で発表するようになる。 ・ 「今日はどんなのだろう」と楽しみにするようになる。
2. 語彙を増やす		
言 葉 あ つ め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主活動の前の5分間を使って「あ」「い」「う」…のつく言葉を集める。 ・ 子供達の発言が少なくなってきたら「くだものの仲間にはないかな?」「お部屋の中にはないかな?」といったヒントを与える。 ・ 子供達があげたものを黒板に書き前後に一緒に声を出して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知っているものから、声を張りあげて言葉にする。 ・ 皆が意欲的に参加していた。 ・ 次回は何の字であるかを聞くと意欲的にその字のつく言葉を搜していた。 ・ 日常生活の中でも何げなく言葉にして「あ!今のは『か』のつく言葉だね」などと積極的に言葉あつめができた。

	<p>読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数を数えて黒板のすみに記し、次回の文字を与えて期待を持たせる。 	
色物集め	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは、「赤い物は?」「黄色い物は?」と思いつく物を発表させる。 慣れてきたら、それを言えば「赤だ」「青だ」とはっきりわかる物だけを集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・喜んで発言するが、1人が「赤いカバン」など言い出すと、「赤い靴」「赤い～」と続けるようになってしまった。初め頃はたくさん発言させるようにした。 次の段階では、「りんごは赤だけかな」と子供達に問いかけ「黄色もある」などの発言から出た物に対して赤だけだろうか、他の色の物はないだろうかなど考えるようになった。
しりと	<ul style="list-style-type: none"> ・円になり、順番に言ってゆくが、ルールに慣れたら、5、6人のグループに分かれて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「う」「ん」の区別が難かしいようだった。 「ゆびわ」→「るびわ」「りっきょう」→「らっきょう」と言うように間違えたり、意味を取り違えていることが時々あった。 ・ふだん、おとなしく口数の少ない子も、皆の前でも恥ずかしがらず言うことができた。
反対言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・「高い→低い」「大きい→小さい」などの反対言葉を探し発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「広い→狭い」「長い→短い」などは、難しいようだった。
連想ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・「り○ご」のようにまん中の文字をぬかしておく。 ・○の中の文字を考えあてはめていく。 <p>「うさぎははねる、はねるはカエル、カエルは…」と連想される言葉をつなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3の問題を出すうちに、あてはめることができるようになってきた。 ・慣れてきたら「し○ぶ○し」などのように複雑にしていく。 ・「あ○○」のようにすると、○の中にいろいろあてはめることができ、たくさん言葉ができる。 <p>一般に知られているものから始める。その後要領をつかめたら、子供の楽しい発想で連想させていく。</p>

3. 語法を知る

生活発表	<ul style="list-style-type: none"> ・絵日記を使って ・毎土曜日に絵日記の用紙を持ち帰らせる。 ・休日に一番楽しかったこと等を絵にして（文字の書ける子は文も、書けない子は、お家の人に書いて頂く）月曜に持ってくる。 ・皆の前に出て絵日記を広げ、休み中、自分が何をして過ごしたか、また、その感想等を発表する。 ・ふたつのグループに分け、ひとつのグループが発表、もうひとつのグループは、その内容についての質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵日記を書いてくることに対しては、ほとんどの子が意欲を示した。 ・文字が書けなかった子も、絵日記を始めるようになってから文字に興味を持つようになった。 ・絵日記を使うことによって人前でうまく話せない子でも、「絵に書いたことをお話ししてごらん」等の言葉がけによって少しずつ話の内容が増えていった。 ・初めは自主的に手をあげさせる始めたばかりは、ひとりふたりがやっとであったが、最近では、尋ねが、元気に手をあげる。 きっかけを作ってあげると次第に話を続けられるようになる。 ・二つのグループに分けることによって質問に答えられるようにと人の話を真剣に聞く態度も見られるようになった。 ・金太郎、かたつむり、などの名詞が多かった。
かえ唄	<ul style="list-style-type: none"> ・そうだったらいいのにな 4番の詞の最後に5文字の言葉をあてはめる。その日、その日の当番が、あてはめる5文字を考え皆でうたう。 	
お話し作り	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の文は保母が与える。 発言の少い子には○○ちゃんならこの次はどんなふうにしてみたいか等のことばがけをして積極的に参加させる。 ・内容は子供達からでてきたものを大切にする。 ・接続詞などは、適当に補助し、お話しをノートに書きとめる。 ・でき上がったものを読みきかせ楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は話しづくりの要領がわからず限られた子しか発言しなかったが、そのうち大きな声で「○○にしたい…○○の方がいいヨ…」等、子供同志話し合う場面が見られた。 ・動物が出てくる話を好んだ。以前読んでもらったり、読んだ本の影響が大きく、内容が似かよった方向に進んでいってしまった。
途中からのお話し作り	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に目を閉じさせ「広い広い野原がありました」などと話しを進め、その情景を想像 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに子供の反応があった。子供達から出た言葉をひとつひとつつなげて、文にすると、

	<p>させ途中で「空を見ると、「あれ」「ワー」「すごい」などの疑問詞や形容詞で止め、子供に続けさせる。</p>	<p>「ヒコーキ」などは良いが「空を見るとワーライオンだ」になると、子供にも「空にはライオンはいないよ」と文のおかしいことに気づいたり、前の文とのつながりを考えるようになった。</p> <p>話し方も子供達がつなげていき、どんどん発展していった。</p> <p>・最初に与える文を考えるのがむずかしかった。</p>
<p>年 中</p> <p>1. 基本的な発音や発声、正しく話すための口のトレーニング</p>		
伝言あそび	<p>子供達を一行に並ばせて、簡単なことばを後の友達に伝える。</p> <p>第1段階 チョウチョ、ドーナツなどの単語を伝える</p> <p>第2段階 ひよこがピヨピヨないているきょうのおやつはチョコレートなどの文章を伝える</p>	<p>・最初の頃は簡単なことばでも途中で忘れてしまい、伝えられないことが多かったのだが何度も遊びをくり返すうちに正確性が出てきた。</p> <p>・第2段階のことばの伝言は、リズムカルなためか、伝言しやすかったようだ。</p>
うたあそび	<p>「小鳥の結婚式」「ビビディバビディブー」等言いまわしが難しくてかつ面白いものを選んで歌う。</p>	<p>・年中ではくり返し教えることが大切。速度を変えてみると面白い。</p>
同じ言葉のくり返しあそび 「なんのおと」	<p>・石のころがる絵を見せて「どういう音をたててころがっているかな？」と聞く。 答えた言葉を何度かくり返す自分自身が石になり、ゴロンゴロンといいながらころがってあそぶ。</p> <p>・雨の降る音、うさぎのはねる音、いびきの音、ボールをころがす音、たいこをたたく音</p>	<p>・中には、思いがけない音がでてきた。 喜んでやる。</p>
<p>2. 語彙を増やす</p>		
途中で語をあてはめる	<p>「ア〇ル」などのようにことばや単語の途中の文字をぬきとっておき、何の文字が入るのかを当てる。</p>	<p>短い語に関しては、すぐにあてはめてゆくことができるのだが長い語や単語の途中2カ所をぬいたりすると、なかなか難しいようだ。</p> <p>途中でヒントを聞きだしたり、</p>

<p>歌の途中に あてはめる</p> <p>絵カードを使って話し合いをする</p>	<p>「大好きなぶどうパン」</p> <p>・身近な物を絵にして単語を覚える。出てくる単語の意味を話し合いで応用しながら理解してゆく(TV・電話・信号など)</p>	<p>そこからなぞなぞあそびなどへ発展し、あそびを盛り上げると効果的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンの名前を当てはめる。ジャム、チョコ、メロン、あんこなど、いろいろな名前を入れてうたうことができる。 ・実際にはないものでも、食べたいなど、思いめぐらせながら、いろいろなものをひき出す。 ・1枚のカードでも質問をいろいろ用意しておくとお話がひろがる。 <p>生活発表など、無理があるかなと思われる時に良いであろう。</p> <p>TVなら、「いつ見るの」「ごはんの時はどうするの」と生活の中に入りこんでゆける身近なので、発言しやすい。</p>
<p>3. 語法を知る</p>		
<p>紙芝居</p> <p>素話を聞く</p> <p>仲間はずれ何?</p> <p>劇 あそび</p>	<p>紙芝居を見終わったあと、もう一度紙を見せて、ストーリーを言う。</p> <p>・午睡の時、保育が添い寝し話を聞かせる。</p> <p>・前日の続きを聞く。</p> <p>・運動ぐつ、ながぐつ、かさの中で仲間はずれは何?といったふうに質問する。</p> <p>・理由を発表させる。</p> <p>・紙芝居を見ながら言葉のやりとりに参加する。</p>	<p>・一枚の絵を見ながらさかんに「～だった」と発言する。</p> <p>「～がこうした」というのではなく、主語がぬけて話す子が多かったので、「だれが」「どうして」などをはさみながら、なるべく具体的に文章を長く話させるようにした。</p> <p>・絵本、紙芝居とは違うので、より想像力を伸ばすことに力をかしていると思う。</p> <p>・最初は絵がないので、物足りない様子だったが、次第に内容に興味を持てた。</p> <p>・とても活発に手があがった。理由もちゃんと答えられた。</p> <p>・一題で二通りの答えがあり、意外な面白さがあった。</p> <p>・何となくわかるが、理由が言えないという子に対しての助言がポイント。</p> <p>・パターンが決まってくくり返しであったことやトロールが</p>

	<p>「三匹のヤギのガラガラドン」</p> <p>・好きな役にわかれて劇あそび</p>	<p>出てきてスリルがある。ストーリーを大変喜んだ。 一緒に紙芝居に加わり、皆で声をかけ合いながら参加する。</p> <p>・発表会の劇とは違う、雰囲気の中かけまわりながら楽しそうにやっていた。</p> <p>・役になり切り、言葉や動きを表現し、想像しながら楽しんでいた。</p>
--	---	--

まとめにかえて

子供達の言語活動の豊かさは、周りの大人が、日常使っている言葉に大きく影響を受ける。言葉を媒体とし、コミュニケーションが深まり自分の考えをまとめたり整理することにより思考がすすめられるのであるから、私達保育者が、正しい言葉を楽しくたくさん使い、楽しい世界を知らせていくことが、大変重要な意味を持つことを、この一年間を通して再認識した。各園の先生方と、様々な言葉あそびについて話し合い考えられたこと、また、口頭詩を採録するにあたって、子供達の会話に努めて耳を傾けることができたことは、このような意味においても、大変有意義であった。

子供達の言葉に心を留め、常に「ことばのキャッチボール」をしてゆける保育者でありたいと、切に感じている。

(軽井沢中保育園及び聖ヨゼフ保育園)